

課題：使役移動事象（事物を動かす事象）を、諸言語がどのように言語化するのか

1. 類型論的研究

- 経路表現位置 (Talmy 1991, Matsumoto 2018)
- 経路を**主動詞**で表現するか、**それ以外**で表現するか。主動詞の場合は使役経路動詞の使用になる。
 - a. ボールをゴールに蹴り**入れた**。
 - i. He kicked the ball **into** the net.
- 文の構造 (Haiman 1983, Givon 1990)
- 使役のタイプによって文の複雑性が異なる。
 - a. ボールをカバンに入れた。
 - i. ボールをネットに投げ入れた。
 - ii. 学生を教室に入らせた。

2. 使役移動に関する仮説

- 表現の特性は、使役移動のタイプにより異なる
- MOVE BY HAND, KICK, CARRY, CALLを取り上げるとこれらは、1)使役と移動が同時か連続的か、2)移動が意志的か、3)使役者が移動するか等の三つの観点から分類される。これらに基づき意味スペースを作成
- CARRYは使役と移動が同時と捉えることができるが、事物の取り上げと人の意志的移動の連続として捉えることもできる (TAKE AND GO)。

	使役と移動が同時	使役と移動が連続的	
		移動が非意志的	移動が意志的
使役者移動なし	MOVE BY HAND	KICK	CALL
使役者移動あり	CARRY ----- CARRY		

仮説1:左側の事象ほど、単純な形式で表現される
仮説2:隣接した事象のみ、同じ形式で表現される。

3. NINJAL Project on Motion Event Descriptions across Languages (MEDAL)

- 統一的な発話実験によって20言語の移動表現を調査。その中で、4種類の使役移動事象も調査
- 諸言語の共通性と差異を明らかにし、その中で日本語がどのように位置づけられるかを考察
- ここで扱う5言語と担当者、被験者数
 - 日本語 (古賀/吉成/松本; 22) 英語 (秋田/眞野/松本; 23)
 - ハンガリー語 (江口; 15) タガログ語 (長屋; 10)
 - ホルチンモンゴル語 (パドマ; 12) スワヒリ語 (カフンブル; 15)
- 全52クリップのビデオ映像を話者に描写してもらう
- 以下の4種類の使役タイプ・直示の組み合わせからなる12のクリップを準備。経路はTO.IN
 - 様態：MOVE BY HAND, KICK, CARRY, CALL
 - 経路：TO.IN
 - 直示：TWRD S, AWYFRM S, ORTHOGONAL
 - (直示性は移動の方向が話者に近づく方か、遠ざかる方向か、話者から見て横の方向か)



MOVE BY HAND (TO.IN/TWRD S)
(カバンに本を手で入れる)



KICK (TO.IN/ORTHOGONAL)
(ボールを休憩所の中に蹴って入れる)



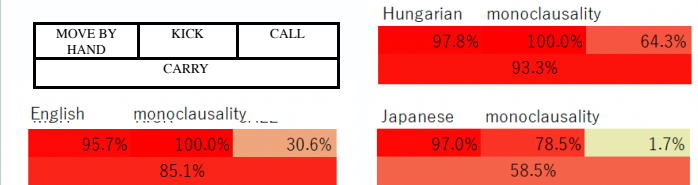
CARRY (TO.IN/AWYFRM S)
(椅子を休憩所の中に運ぶ)



CALL (TO.IN/TWRD S)
(友人を休憩所の中に呼ぶ)

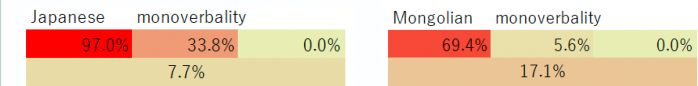
4. 結果と考察 (意味スペースの各事象の位置に結果を表示)

4.1 文の複雑性 (単文が使われた率を赤の濃さで表示)



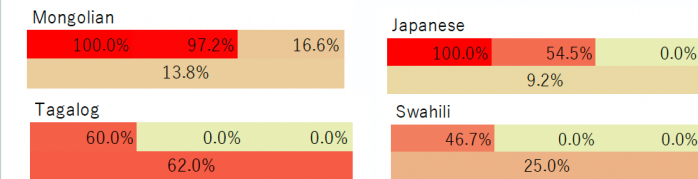
CALL以外は単文で表現される傾向。CALLは日本語では複文（「マリアは名前を呼ばれて休憩所の中に入って来た」）。ハンガリー語ではどの事象も単文

4.2 述語の複雑性 (単一動詞が使われた率を赤の濃さで表示)



日本語では、MOVE BY HANDのみ単一動詞が多い（「入れた」；他事象は「蹴り込んだ」など）

4.3 使役経路動詞 (使役経路動詞が使われた率を赤の濃さで表示)



「入れる」などの使役経路動詞はMOVE BY HANDに使われることが多く、加えてそれに隣接する事象に対して使われる。

5. 結語

- 使役移動の表現には使役のタイプによって異なる
- 諸言語の表現には多様性があるが、通言語的には共通の傾向がある。
- 使役に関する複数のパラメータによる意味スペースを設定することで、そのパターンが捉えられる。
- 日本語は使役移動のタイプによって、文の複雑性や複合動詞、使役経路動詞の使用が変わる。